

新しい農業、新しいエネルギー CSVが照らす輝かしい未来へ



株式会社富山環境整備
代表取締役
松浦 英樹

はじめに

2013年からまとめてきた「CSRレポート」を発展させ、今回は新たに「CSVレポート」として発行いたします。CSRが本業外での社会貢献活動であるのに対し、経済的利益と社会的課題の解決の両立を目指すCSV

は、富山環境整備の歴史と今、そして未来にとって、より適した考え方だとの判断からです。このレポートでは私たち富山環境整備のCSVへの取り組みをご紹介します。

事業展開と地域社会との連携

富山環境整備は創業以来、社会、そして地域の要請に応える形で様々な廃棄物処理が可能となる設備を導入してきました。2012年には低濃度PCB廃棄物無害化処理事業をスタート。微力ながらも日本が抱える環境課題の解決に貢献しています。また廃プラスチックをペレットとして製品化するリバース事業や、廃棄物による発電事業、建設汚泥・建設残土の再資源化など、

様々なリサイクルにも取り組んできました。

地域防犯パトロール、清掃活動、トマトの収穫イベント、地域イベントへの参加・協賛など社会との関わりも大切にしています。地域社会との共生は私たちにとって、最も重要な理念のひとつです。多くの方々のご理解とご支援によって、私たちの事業が成立していると言っても過言ではありません。

廃棄物由来エネルギーで次世代アグリ

2001年から取り組んでいるアグリ事業は、昨年2014年に大きな展開を見せました。事業主体として参加している「富山スマートアグリ次世代施設園芸拠点整備協議会」が農林水産省の「次世代施設園芸導入加速化支援事業」の富山拠点として採択されたのです。

廃棄物由来のエネルギーを利用したトマト栽培で

は、ICTを活用することで、品質向上、作業の効率化、均一の大きさと糖度を実現しています。廃棄物処理と発電、そして農業が一体となることで、富山地域の農業の高度化、ひいては日本の農業の世界的な競争力の強化に寄与できればとの考えで、日々改善を続けています。

新しいエネルギー産業へ

たとえば、私たち富山環境整備が取り扱う産業廃棄物は年間30万トン。中間処理・選別をすると18万トン。これで17万kWhの発電量が見込めます。これはハウス約2000棟の電力で、実現すれば数千人の雇用を創出することができます。それだけのポテンシャルを地方の一産業廃棄物処理企業が保有しているのです。

私たちは「廃棄物」を「資源」と捉え、未利用資源の活用を推し進め、エネルギー産業の一角を担える存在になりたいと考えています。日本が、そして世界が抱えるエネルギー問題、食糧問題、環境問題にCSVの考え方を軸に取り組むことが、すなわち企業としての成長に直結すると確信しているからです。

富山環境整備は全社一丸となってCSV活動を拡充していくことを誓います。今後も、変わらぬご支援をいただけますよう、よろしくお願いいたします。



CSV基本方針

富山環境整備は、経営理念である『感謝・共生・公益』の中の『公益』を実現することがCSVだと捉えています。廃棄物処理事業を基軸に、社会的課題・ニーズの変化に対応するためのキーワードをかけあわせていくことで新たな価値を創造し、持続可能な社会を目指していきます。

経営理念の実現

感謝

今日あるのは、先人や会社に係るすべての関係者の皆様のおかげである。これを基に感謝の心と高い徳性を持ち企業活動を行う。

共生

共に相手を認め、互いを必要とし、共に生かし合う関係をもって、地域社会とともに繁栄し、人々の幸福のために行動する。

公益

我々が行う事業活動は、国家・国益・社会益のために行い、新しい公共の利益を創造する。



廃棄物処理事業



知識経験



課題解決



利益



人財

今までの事業を通じて得てきたもの

富山環境整備の基盤



CSR

事業活動に伴い発生する影響に対応



基盤をより強固なものにするために



P08
▼
P11

廃棄物処理技術の向上



今の社会的課題・ニーズに対応し新しい価値を生み出すために



P12
▼
P17

廃棄物処理事業×容器包装リサイクル法 ~リバース事業~
廃棄物処理事業×農業 ~アグリ事業~
廃棄物処理事業×水 ~ボトリング事業~



=

NEXT
KEY
WORD

外部環境の変化
||
社会的課題・ニーズの変化

エネルギー
高齢化社会
地方創生
グローバル化社会 雇用

NEXT
KEY
WORD

次なるキーワードを見つけ
持続可能な社会を目指すために



経済・社会・環境に配慮した
マネジメントを行うために

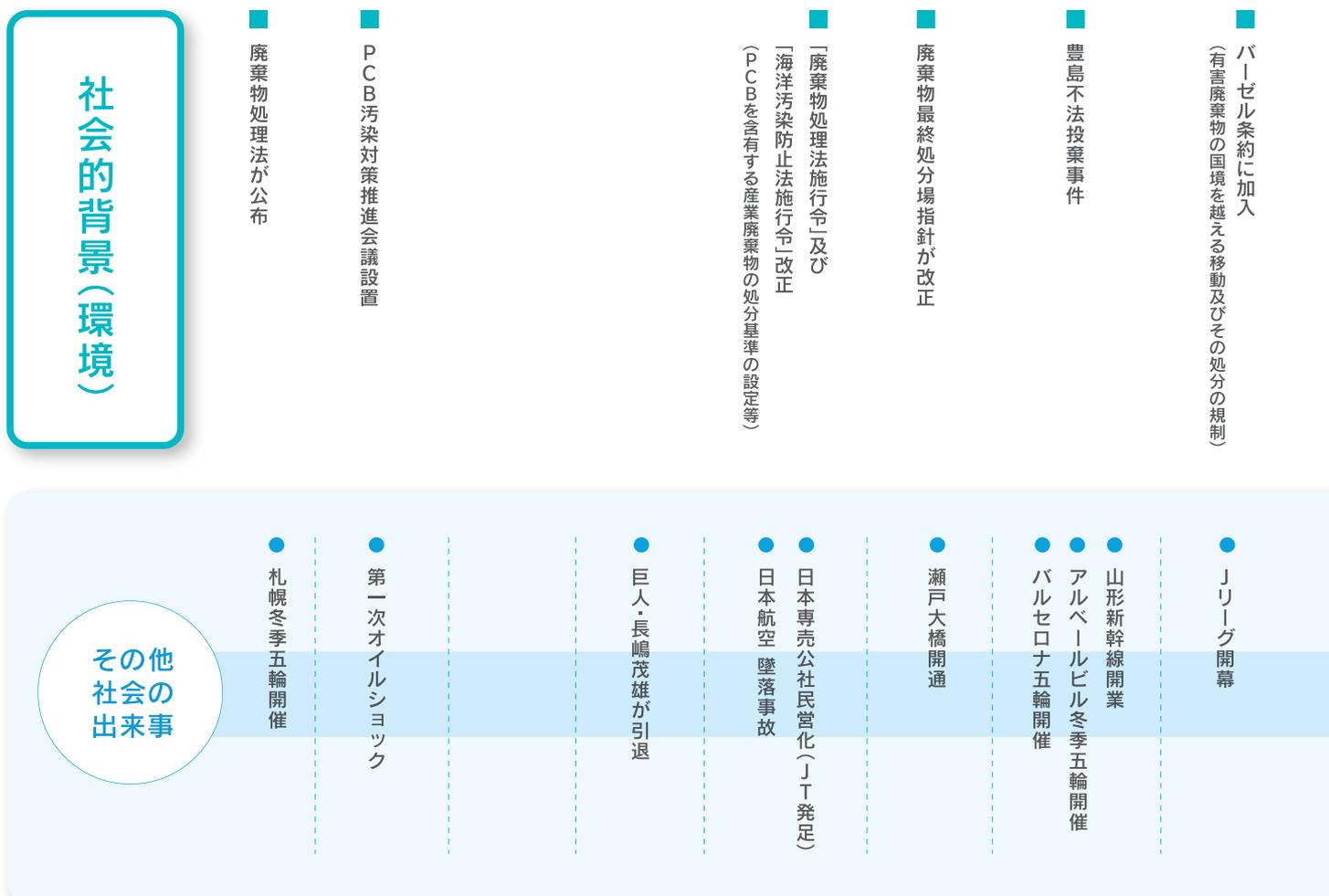
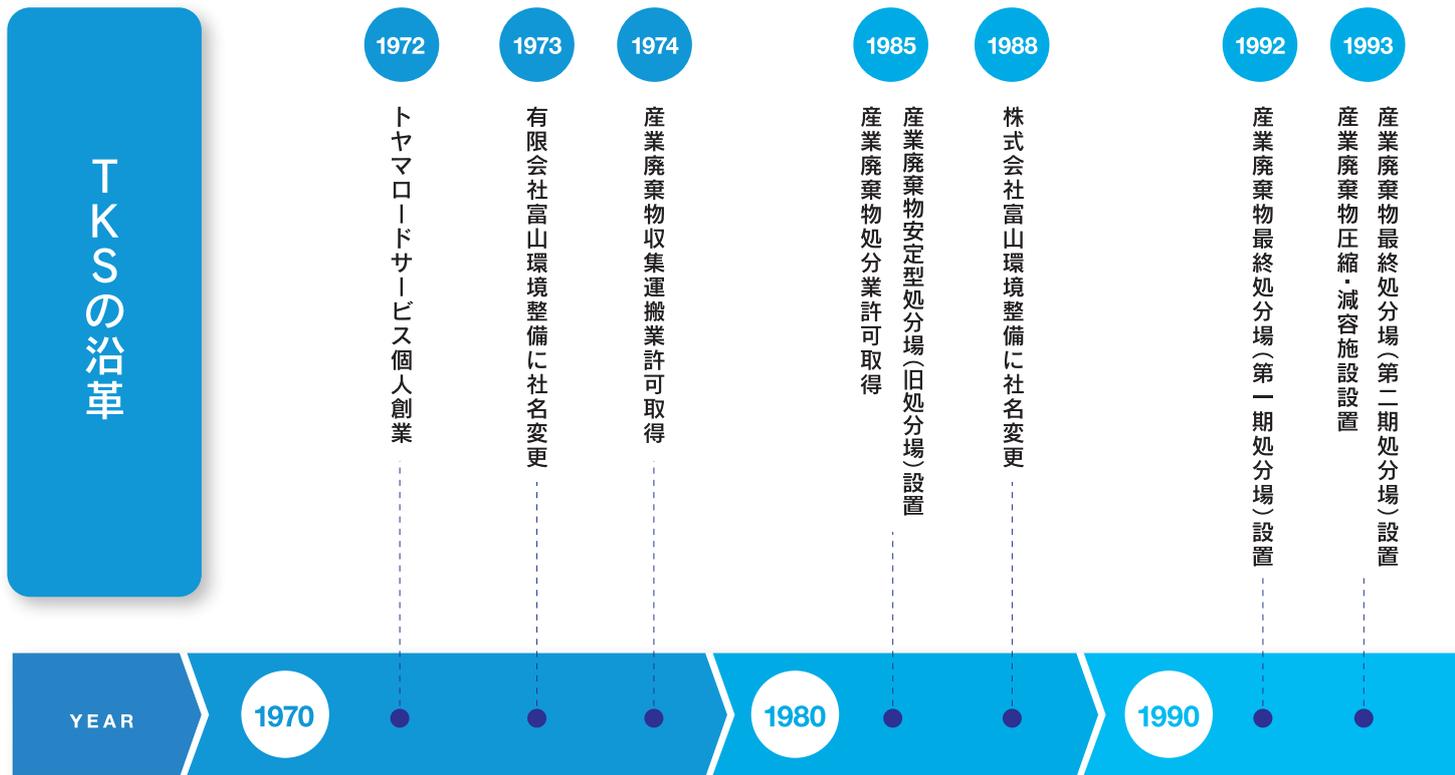
P18
▼
P19

富山環境整備のビジョン

P20
▼
P22

KPI / CSR活動トピックス

基盤となる廃棄物処理事業の歴史



2011

優良産業廃棄物処理業者認定
計量証明事業登録

2010

汚染土壌処理業取得
自動車リサイクル法施設認定

2009

特別管理産業廃棄物処分業許可取得

2008

キレート・吸着処理施設設置
発電併用焼却施設「リバースパワー」設置

2007

生物処理・中和施設設置

2002

産業廃棄物最終処分場(第3期管理型処分場)設置

2001

一般廃棄物処理施設(再材料化施設)設置
産業廃棄物再材料化施設設置
産業廃棄物圧縮・減容(ラージベール)施設設置

2000

一般廃棄物処理施設(圧縮・結束)設置
プラスチック再製品化施設「リバース工場」設置
汚泥・残土再資源化施設(選別・分級・脱水)設置

1996

産業廃棄物選別施設設置

1995

一般廃棄物処理施設(選別・圧縮)設置

2010

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)
にて名古屋議定書が採択

■ ストックホルム条約
(PCBの製造・使用・輸出入の禁止等)が発効

■ 自動車リサイクル法が公布

■ PCB特別措置法施行
■ グリーン購入法 完全施行

■ 建設リサイクル法が公布
■ 容器包装リサイクル法 完全施行

■ 家電リサイクル法が公布

■ 容器包装リサイクル法が公布

● 東日本大震災

● 尖閣諸島にて中国漁船が
海上保安庁巡視船に衝突

● リーマンブラザーズ破綻

● 郵政民営化

● アジア初の
サッカーワールドカップ開催
(日韓共催)

● 東京デイズニースー開園

● 九州・沖縄サミット開催
● とやま国体開催

● 長野冬季五輪開催

● 阪神・淡路大震災



TKS BUSINESS
OUTLINE

廃棄物処理 事業 技術の向上

廃棄物は資源である という確固たる基盤がここにある

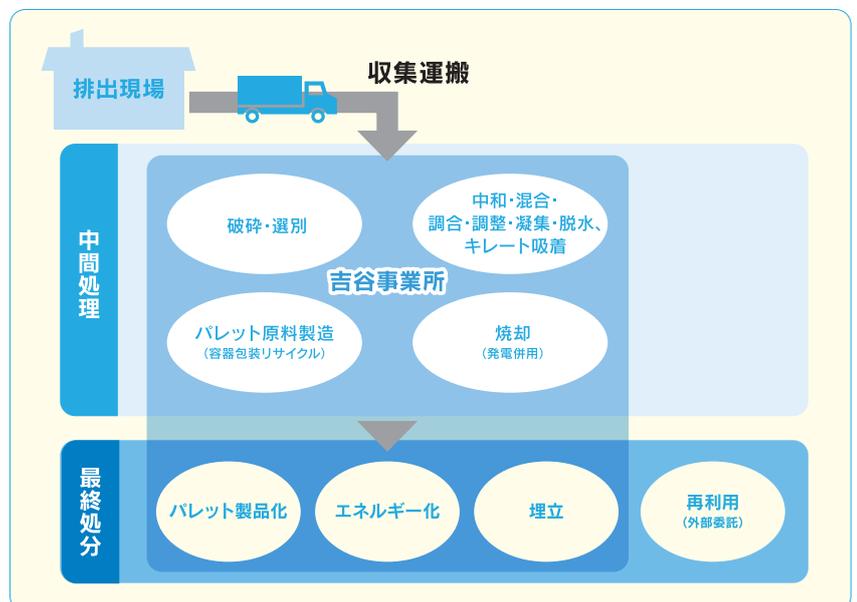
多様なリサイクル方法が確立され、リサイクルは当たり前の時代になりました。
適正処理を根本に、改めて廃棄物は資源であるという事を再認識し、
新たな価値を見つけ出していきます。

信頼の一括管理システム

搬入された廃棄物を破碎・選別から焼却等の中間処理を行い、最終処分までを同一敷地内で行うシステムです。処理の透明性が高く、最終処分まで速やかにかつ適正に処理致します。

POINT

- ① リサイクルを目的とした選別
- ② 発電併用の焼却施設のためリサイクル率が高い
- ③ 産業廃棄物管理票(マニフェスト伝票)のE票返却を速やかに実施





廃棄物収集運搬

道路路面清掃を生業としてスタートし、その中で時代の変化に伴い、1974年に廃棄物収集運搬事業がスタートしました。

今では54台の車両を保有し、産業廃棄物は16品目、特別管理産業廃棄物は8品目の許可を取得しました。安全かつ適正に運搬するための容器や車種を準備しております。PCB廃棄物に関しては広域認定を受け、全国各地の運搬に対応しております。また、特殊車両を用いて多様な現場での各種清掃作業に対応しており、安心・安全で住みよい地域の環境づくりに取り組んでいます。

各種清掃事業

道路路面清掃、ピット清掃・配管等の高圧洗浄作業
事業場の側溝清掃、河川浚渫作業、除草作業、除雪作業



管理型最終処分場

リサイクルできない廃棄物については第3期管理型最終処分場にて埋立処分をしております。最終処分場内で集められる浸出水は水処理施設で安全できれいな水にし、焼却施設の冷却水利用や河川への放流をしています。

埋立完了後の跡地は施設園芸による農作物の栽培を予定しています。

1977年

最終処分場
検討開始

1985年

旧安定型最終
処分場設置

1992年

第1期 安定型
最終処分場設置

1993年

第2期 安定型
最終処分場設置

2002年

第3期 管理型
最終処分場設置

破碎・選別

搬入される廃棄物はまず選別を行い、リサイクル資源を取り除く作業から始まります。その後廃棄物の品目により更なる選別や破碎工程を行い、材料や燃料としてリサイクルされます。



焼却(発電併用)

選別後に発生した材料リサイクルに適さない可燃物や可燃性の汚泥・廃油・動植物性残渣など計15品目の廃棄物を処理します。焼却時の廃熱を利用して発電を行い、自社施設へ供給しています。



中和・混合・調合・調整・凝集・脱水, キレート吸着

廃酸、廃アルカリおよび汚泥の水溶性の有害物質を無害化し、発生する汚泥は無害化を確認後、焼却又は埋立処分します。

有害重金属で汚染された廃棄物はキレート(金属固化)剤や吸着剤などで有害重金属が溶け出さないように不溶化処理し無害化します。汚染土壌の無害化処理にも対応できます。



パレット原料製造(容器包装リサイクル)

容器包装リサイクル法の再商品化事業者として、容器包装材からプラスチック原料(ペレット)を製造します。 ※詳しくはP12~13をご覧ください。

■ 計量証明事業

持ち込まれる廃棄物等の性状分析を主な業務としております。特に特別管理産業廃棄物の受入物の性状確認分析、処理後の無害性確認分析に重点を置いています。

また、当社事業場から発生する排水、処理水、放流水、河川水、地下水、排ガス、燃え殻、ばいじんなどを分析し、自主的な管理を実施しています。



低濃度PCB廃棄物の無害化処理

1968年のカネミ油症事件をきっかけに、PCB(ポリ塩化ビフェニル)問題が社会問題化しました。2001年にはストックホルム条約(POPs条約)が締結され、2028年までにPCB廃棄物を処理することが、世界各国に義務付けられました。これを受け、日本でも同年に「PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法(PCB特措法)」が制定され、PCBを保管している事業者に対し、2027年3月31日(※)までに処分を実施しなければならないように決められています。

この社会問題に対し、当社は2012年に微量PCB汚染廃電気機器等の処理に係る環境大臣認定を受け、PCB廃棄物処理事業がスタートしました。2014年9月には微量PCBを含む低濃度PCB廃棄物無害化処理の再認定により処理能力が向上し、より多くのPCB廃棄物を処分できるようになり、現在までに7950.9t 処分しました。

低濃度PCB廃棄物の無害化処理認定施設は全国24社になりました。そのうちの1社として責任を持ち、日本の抱える社会問題の解決に取り組めます。

※2012年12月法改正により処分期限延長



PCB問題の背景

1968年 カネミ油症事件

1972年 PCB製造中止

2001年 スtockホルム条約 採択

2001年 PCB特措法 施行

2012年
微量PCB汚染廃電気機器等の処理に係る環境大臣認定

PCB廃棄物処理量
7950.9t
(2012年9月~2015年3月)

INTERVIEW

率先して社会問題の解決に取り組む。

YKKグループは高濃度PCB及び微量PCB廃棄物を多数保有しており、そのうちの黒部事業所にて保管している微量PCB廃棄物の処理を富山環境整備様で行っております。

同じ富山県で事業を行うものとして、PCB廃棄物の処理という社会的課題に共に取り組むことは当社でも非常に重要と感じ、2011年の実証試験段階から協力させて頂きました。2020年までにすべての処理を完了する予定です。

PCB処理は環境汚染のリスクを低減させるだけではなく、従業員や周辺住民の健康へのリスク低減にもつながると考え、率先して処理を進めていきたいと思っております。

YKK株式会社
黒部事業所
環境・安全衛生グループ
環境管理担当
村重 誠吾 様



廃棄物処理事業



容器包装
リサイクル法

リバース事業



静脈から動脈をつくる

1995年に成立し2000年に完全施工した「容器包装リサイクル法」に基づきリバース事業はスタートしました。その中のプラスチック製容器包装材の再商品化事業者として富山環境整備はリサイクルを推進していきます。リサイクル原材料化からリサイクル製品づくりまで。静脈から動脈を創る、リサイクルシステムがここにあります。

社会的な
課題・ニーズ

- 国内の最終処分場埋立容量のひっ迫
- 原油価格に左右されない安定的な樹脂原料の調達
- 限りある資源の有効利用
- 安価で多種多様なリサイクル製品の普及拡大

リバースシステム

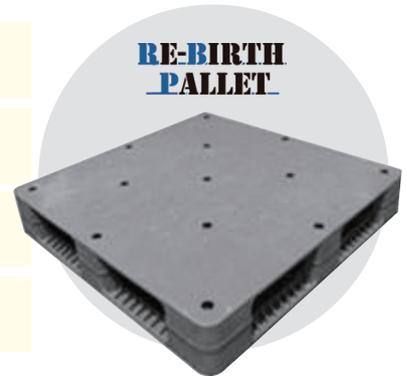


創造できる
社会的価値

- 1 原材料製造から製品製造まで一拠点で行うことによる低コストの実現
- 2 最終処分場の延命化
- 3 原油価格に左右されないリサイクル材料による安定した製品作りの実現
- 4 使用済み製品の再材料化
- 5 原料の種類別高度分別により用途に合わせた製品開発

リバースパレットの特徴

- 1 家庭から排出された容器包装プラスチックごみによるリサイクル製品
- 2 ごみから製品を作り出す「マテリアル(材料)リサイクル」100%を実現
- 3 耐久年数、耐荷重、強度試験JIS Z0602合格
- 4 廃棄時には無償で引き取り、再度リサイクル可能 ※運賃は別途になります。



1100mm シリーズ	RBP-R4-1111	1100mm× 1100mm× 150mm	4方差し・両面使用タイプ	約35kg	1トン(動荷重) 3トン(静荷重)
	RBP-R4-1111L	1100mm× 1100mm× 150mm	4方差し・両面使用タイプ	約26kg	1トン(動荷重) 3トン(静荷重)
	RBP-D4-1111	1100mm× 1100mm× 150mm	4方差し・片面使用・ ハンドリフトタイプ	約34kg	1トン(動荷重) 3トン(静荷重)
	RBP-D4-1111L	1100mm× 1100mm× 150mm	4方差し・片面使用・ ハンドリフトタイプ	約25kg	1トン(動荷重) 3トン(静荷重)
1400mm シリーズ	RBP-R4-1411L	1400mm× 1100mm× 140mm	4方差し・両面使用タイプ	約34kg	1トン(動荷重) 3トン(静荷重)



再生材料を利用したリサイクル製品であるリバースパレットは、エコマークや富山県認定リサイクル製品として登録されています。

光学式選別機械の導入 ～単一素材化を目指して～

より品質の高い原料を製造するために、2014年に新規選別機械を導入しました。この機械は「光学式選別」という手法で、光センサーを活用してPPやPEなどプラスチックの材質ごとの選別精度が向上しています。

原料を単一材質にすることによりリバースパレットの用途を広めたり、新しい製品作りにチャレンジしたいと考えています。



INTERVIEW

お客様の使用環境に適したパレットの開発へ。

2000年からスタートしたリバース事業も今年で15年を迎えました。当社の特徴である原料化&製品化は日本でも最大規模の施設であり、昨年は612,941枚のパレットを製造し、日本全国で使用されています。

新規に導入した光学式選別により、製品づくりの幅が広がると考えています。今後は素材の特徴を活かし、お客様の使用環境に適したパレットの開発、また新たな製品開発に力を入れています。

リバース事業部
部長
谷島 篤



TKS BUSINESS
OUTLINE

廃棄物処理事業

×

農業

アグリ事業

廃棄物由来エネルギーで創る次世代型スマートアグリ

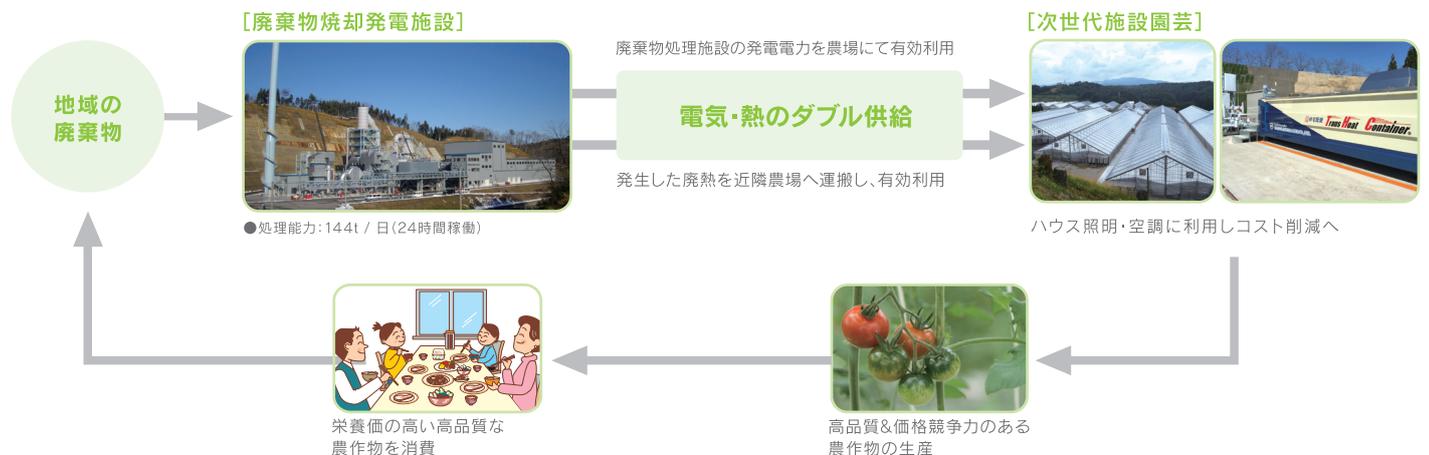
ICTの活用で効率生産と安定供給を実現

2001年にスタートしたアグリ事業。2014年には農林水産省の「次世代施設園芸導入加速化支援事業」の富山県拠点に参画。発電併用焼却施設のエネルギーを活用した環境配慮型農業と、最新技術を駆使した高付加価値農業を実現します。

社会的な課題
ニーズ

- 日本の低い食料自給率
- 富山県の野菜産出額 全国最下位
- エネルギー源を化石燃料に依存
- 郊外地の産業活性化
- 富山中山間地の高齢者が働きやすい場が少ない
- 就農者の高齢化

富山スマートアグリ次世代施設園芸拠点



創造できる
社会的価値

- 1 富山県内の施設園芸活性化(稲作中心からの脱却)
- 2 海外を含めた次世代農業従事者の育成
- 3 廃棄物処理業の新しいスタイルの創出
- 4 富山地域の活性化(環境未来都市の一例、全国へのインパクト)
- 5 脱化石燃料依存
- 6 海外への技術移転
- 7 ICTを活用した経験に頼らない農業 ▶ 雇用創出
- 8 高齢者の働きやすい職場環境創出

富山スマートアグリ次世代施設園芸拠点の誕生まで

2014年
3月

農林水産省「次世代施設園芸導入加速化支援事業」採択

次世代農業の推進により、日本の農業競争力向上を図るべく始まった事業で、全国10拠点のうちの一つに「富山スマートアグリ次世代施設園芸拠点整備協議会」が選ばれました。

2014年
10月



竣工披露&定植式

第1期工事にてフルーツマトの園芸温室5棟が完成し、苗の定植をしました。ここからが本当のスタートです。

2015年
4月



フルーツマトの初選果&出荷

丹精込めて栽培したトマトがついに収穫され、初めての選果と出荷をしました。北陸をはじめ関東・九州エリアのスーパーを中心に販売されました。

2015年
6月



富山スマートアグリ 次世代施設園芸拠点 竣工式

林芳正農林水産大臣、石井隆一富山県知事、森雅志富山市長をはじめ、各界著名人や地域の皆様にご参加いただき、竣工式を開催することができました。同時期に海外への流通も決定し、日本のみならず全世界に広がっています。

INTERVIEW

次世代施設園芸のモデル事例として…。

当初、事業構想を聞いたときは「雪国の富山県でこのような大規模施設園芸が行われるのか」と驚きました。2014年7月から建設工事がスタートし、天候の影響を受け当初の計画どおり工事が進まない時期もありましたが、富山環境整備様や工事関係者の皆様のご努力により、2015年6月に無事竣工となりました。

この拠点では、廃棄物焼却発電施設で発生する電気や熱の活用や、高度な環境制御技術を駆使することにより、フルーツマトや切花の周年・計画生産を実現することとしており、全国的にも極めて先進的な取り組みです。

次世代施設園芸のモデル事例として、海外にも販路開拓し、県内のみならず国内の施設園芸の発展に貢献いただくとともに、本県農産物のブランド力向上に繋がることを期待しております。

富山県 農林水産部
農産食品課
園芸振興係 主任
高田 健一郎 様





TKS BUSINESS
OUTLINE

廃棄物処理事業

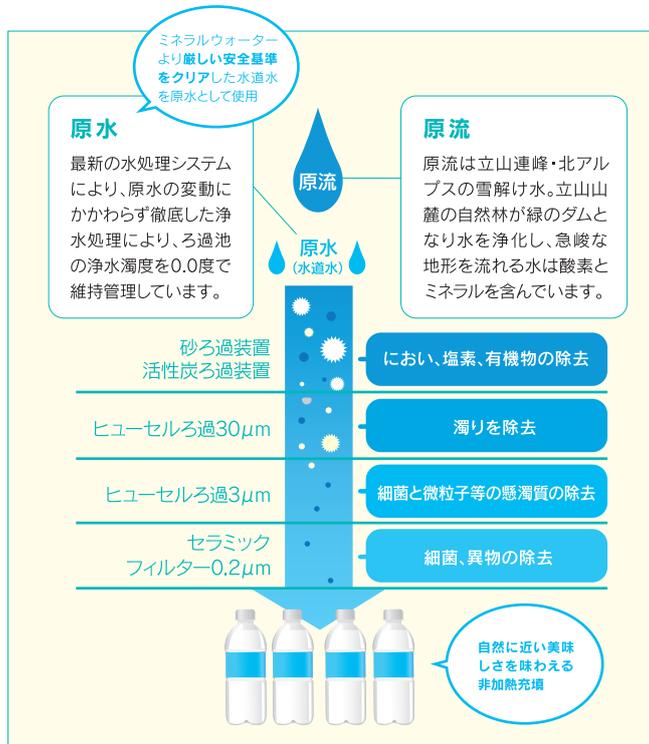
×

水

ボトリング事業

豊かな水資源を 国内外へ発信する

北陸地域の誇る北アルプス・立山連峰。この標高3,000m級の山々に積もった雪こそ、おいしく豊かな水源のひとつで富山の水道水の原水となっております。豊かな水資源のもとで事業を行う一方、世界に目を向けるとき美しい水を得ることができない地域が存在します。水の国・富山だからできるボトリング事業で課題解決を目指していきます。



社会的な
課題ニーズ

- 立山連峰を水源とした高品質な水道水の活用
- 環境変化人口増加に伴う世界的な水不足
- 地域資源の発掘、ブランド力向上
- より高品位な水の需要
- 災害に備えた水の備蓄・管理

創造できる
社会的価値

- ① 地域資源の有効活用
- ② 富山ブランドへの発展
- ③ 海外への安心・安全な水の供給
(天空の杜プロジェクト)
- ④ 高品位な水の提供
- ⑤ 環境変化に対応した水の管理と供給

『立山の水 ささら』販売開始

立山連峰を水源とした富山の水道水を原水に、「富山らしさ」をコンセプトに『立山の水 ささら』ができました。
富山県内での販売を開始しており、今後は他エリアにも展開していきます。

さら × 八尾和紙

(有)桂樹舎様とタイアップし、伝統の八尾和紙の風合いを生かしたパッケージになりました。



さら × ライトレール

期間限定で富山市内を走る路面電車にラッピングしています。富山の皆様の日常にさらにも寄り添えることができるよう想いを込めました。



実売会

皆様へさらの良さをお伝えするために実売会も行いました



INTERVIEW

富山の皆様に愛される商品になってほしい。

商品ブランディングから商品を通じたコミュニケーションまで関わらせて頂きました。このプロジェクトで大切にしてきたことは『富山に向き合う』ということです。まずは富山の皆様に愛される商品になってほしいという想いを込めて、エリアを活かした企業間タイアップやプロモーション活動を実施することができました。

『立山の水 ささら』が富山のみなさまに愛され、商品を通じて地域全体の活性化に繋がることを祈っております。



株式会社電通西日本 富山支社 支社長 山本 隆夫様(上段右) 営業部 副部長 奥原 恒治様(上段左)
株式会社電通 関西支社 MCプランニング局 ダイレクトソリューション部
シニア コミュニケーションデザイン マネージャー
生田 正巳様(下段左)
CRプランニング局 第1CDグループ アートディレクター 中尾 香那様(下段中央)
マーケティング・クリエイティブセンター
関西CRプランニング室 コピーライター 田中 健太様(下段右)

天空の杜プロジェクト～進捗報告～

「カンボジアに安全・安心な水を届ける」というミッションを掲げた天空の杜プロジェクトは2年目を迎えました。

大きく3つのステップに分かれているこのプロジェクトもステップ2に入り、シャムリアップ州の病院や寺子屋で浄水装置の導入を進めております。2015年度は最終年度として安全な水に関する教育を行い、カンボジアの持続可能な水の環境整備に向けて邁進して参ります。

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 × 株式会社 富山環境整備



浄水設備完成(シャムリアップ州立病院)

『天空の杜』
出荷本数
1,036,800本
(500ml換算/2015年6月現在)

Step.1

「天空の杜」を
シャムリアップ州の
病院や村の寺子屋へ届ける

Step.2

病院と寺子屋に
ろ過浄水装置の設置と
メンテナンス技術指導

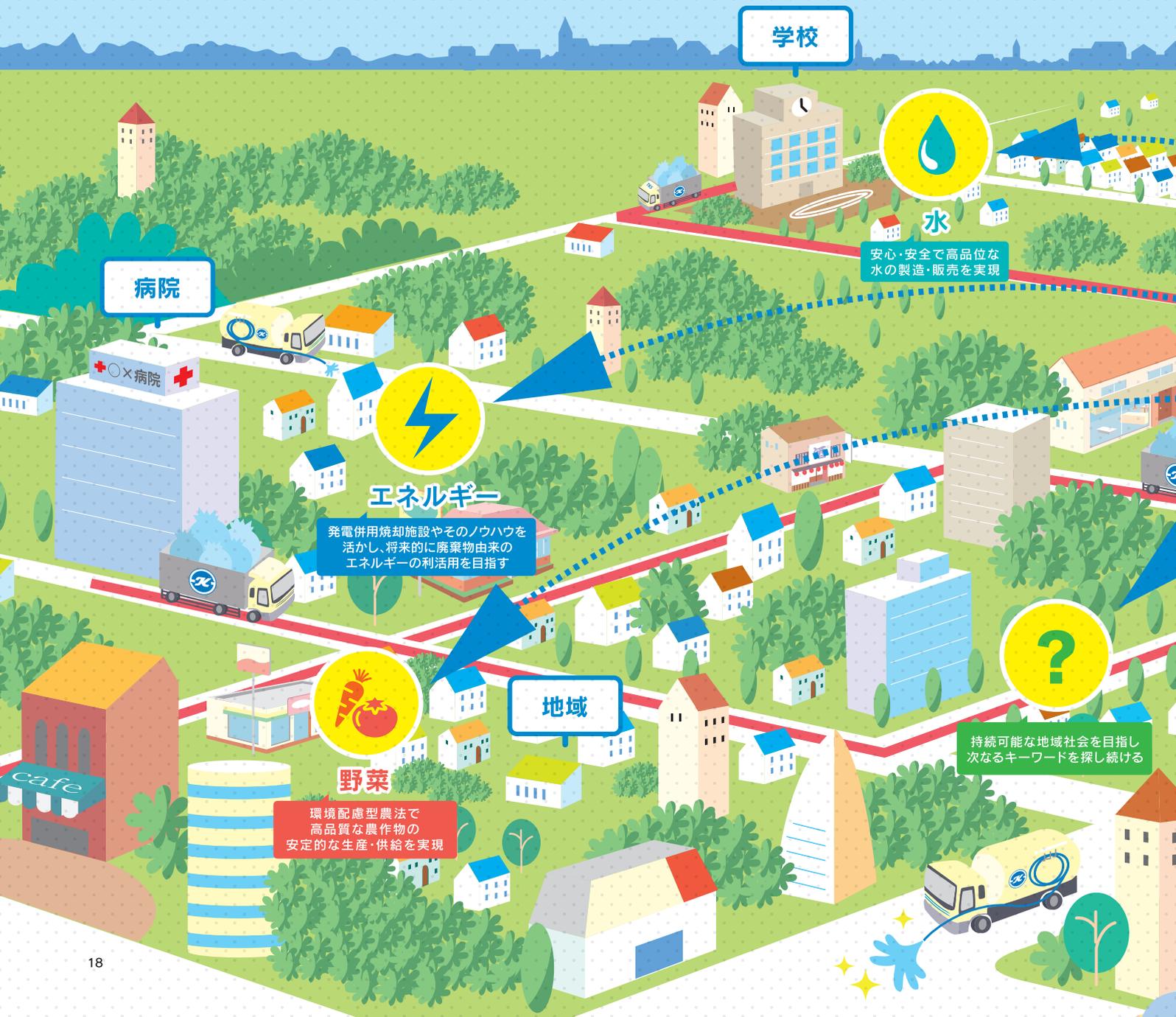
Step.3

安全な水に関する
教材の作成と活用

富山環境整備のビジョン

『真の循環』実現に挑み続ける

- 1 廃棄物を資源と捉え、富山環境整備に集まった資源を製品やエネルギーなど新たな価値を創出し社会に提供することで、地域全体の発展に寄与していきます。
- 2 行政、学校、企業、地域など様々なステークホルダーの皆様と連携・協働していくことにより、持続可能な地域発展の加速化を目指します。
- 3 地域防犯パトロールやイベント参加などを通じ、日常に潜むニーズを掘り出し快適な地域生活に貢献し続けます。



INTERVIEW

1985年の安定型最終処分場設立以前から富山環境整備と関わってきました。廃棄物の法規制も整っていない状態のなか、吉谷地区の発展を考え、富山環境整備と共に歩んでいくことを決めました。

時代の変化は早く廃棄物の種類や業界を取り巻く環境も多様化し、廃棄物処理業者としてできる幅が広がっていると感じます。その中で常に時代の変化に対応し続けた結果が今の富山環境整備だと思います。

これからも地域と共に歩み、もっと大きな企業へと成長し、富山県のみならず世界から必要とされる企業になることを祈っています。



山藤 繁作 様



KPI Key Performance Indicator

当社の取り組むべき社会的に重要な課題を明確にし、実りのあるCSR活動にするために、「KPI(主要業績評価指標)」を策定しております。KPIは

実績対象期間:2013年10月~2014年11月(第42期)

分類	KPI	対象範囲	取り組み内容
一般廃棄物排出重量(可燃物)の削減	一人あたりの一般廃棄物排出量削減率	当社	<ul style="list-style-type: none"> ●リサイクル分別の徹底 ●紙(雑誌、PPC用紙)のリサイクル ●プラスチックごみのリサイクル ●金属のリサイクル
PPC用紙の使用抑制	一人あたりのPPC用紙使用量削減率	当社	<ul style="list-style-type: none"> ●管理システムの構築及び改善 ●ペーパーレスファックスの検討 ●B4、B5用紙の活用
環境配慮印刷	CSRレポートにおける環境配慮印刷実施	当社	<ul style="list-style-type: none"> ●水なし印刷の実施 ●森林認証紙(FSC用紙)の使用 ●印刷段階で発生するCO₂排出量をオフセットする
事務所の電気使用量削減	床面積一人あたりの事務所の電気使用量削減率	当社事務所	<ul style="list-style-type: none"> ●ウォームビス、クールビズの励行 ●エアコンの温度設定(暖房:22℃以下、冷房:27℃以上) ●エアコンの使用時期の清掃 ●休憩時間の照明消灯 ●高効率照明への更新
工場の電気使用量削減	生産量あたりの電気使用量削減率	当社工場	<ul style="list-style-type: none"> ●工場の老朽化した設備の更新 ●破碎機の刃の交換頻度を高める ●工場設備の日常点検強化 ●作業効率・生産効率を高める設備の改造 ●インバーター制御への転換 ●高効率照明への更新
自動車燃料の削減	自動車の燃費	当社保有車両	<ul style="list-style-type: none"> ●無駄なアイドリングの排除 ●車両日常点検実施 ●低燃費車又は低公害車の導入
重機の燃料消費量削減	重機の燃費	当社保有重機	<ul style="list-style-type: none"> ●効率的な運転の実施 ●日常点検実施
エネルギー効率の向上	低燃費車導入率 (平成27年燃費基準達成車)	収集運搬車両	<ul style="list-style-type: none"> ●車両更新時に随時導入
有害物質の排出抑制	低排ガス車導入率 (平成17年基準低排ガス重量車以降の規制車両)	収集運搬車両	<ul style="list-style-type: none"> ●車両更新時に随時導入
外部への環境教育実施	外部への環境教育実施件数	当社	<ul style="list-style-type: none"> ●見学者受入 ●外部での環境教育の推進
優良産業廃棄物処理業者の維持	優良産業廃棄物処理業者の情報公開状況	当社	<ul style="list-style-type: none"> ●月1回のデータ更新実施 ●CSRレポートでの情報公開実施
防犯パトロールの実施	防犯パトロールの実施	NPO法人 安全企画センター	<ul style="list-style-type: none"> ●防犯パトロールの実施
地域イベントへの参加	地域イベントへの参加	当社	<ul style="list-style-type: none"> ●地域のイベントへ参加 ●イベントで排出される廃棄物のリサイクル推進
新卒採用	新卒採用実施状況	当社	<ul style="list-style-type: none"> ●新卒採用の実施 ●業界を担う次世代の育成
安全パトロール	安全パトロール実施回数	当社	<ul style="list-style-type: none"> ●安全パトロールの実施

毎年見直しを行い、時代の流れに沿った活動やそれに対する目標設定、年間の行動計画を立てております。

第42期目標	第42期実績	評価	第43期目標	第44期目標	第45期目標
41期比 1%削減	3.5% 増加	△	41期比 1%削減	41期比 1%削減	44期比 1%削減
41期比 1%削減	3.6% 増加	△	41期比 1%削減	41期比 1%削減	44期比 1%削減
実施継続	CSRレポート2014にて実施	○	実施継続	実施継続	実施継続
41期比 1%削減	9.6% 削減	○	41期比 2%削減	41期比 3%削減	44期比 1%削減
41期比 1%削減	17.0% 削減	○	41期比 2%削減	41期比 3%削減	44期比 1%削減
41期比 1%向上	3.6% 低下	△	41期比 1%向上	41期比 1%向上	44期比 1%向上
41期比 1%向上	24.9% 低下	△	41期比 1%向上	41期比 1%向上	44期比 1%向上
30%以上	35.4%	○	30%以上	30%以上	30%以上
40%以上	45.8%	○	45%以上	45%以上	45%以上
年20件以上	38件	○	年40件以上	年42件以上	年45件以上
情報公開の継続	CSRレポート2014 産廃情報ネット 優良さんばいナビ HPにて情報公開	○	情報公開の継続	情報公開の継続	情報公開の継続
実施継続	日常的にパトロール実施	○	実施継続	実施継続	実施継続
年3件以上	3件	○	年3件以上	年3件以上	年3件以上
実施継続	実施(7名入社)	○	実施継続	実施継続	実施継続
年6回以上	年12回	○	年6回以上	年6回以上	年6回以上

CSR 活動トピックス

01 地域イベントへの参加・協賛

富山県内で開催される様々なイベントに参加・協賛し、地域の方々と交流する機会をいただいています。

2014年6月に開催された「いっちゃん!リレーマラソン2014」では、社員でチームを組みマラソンに参加すると共に、ポトルドウォーター『天空の杜』のブース出展を行いました。このイベントへの参加は昨年に引き続き2回目、地域の皆様と触れ合うことができる貴重な機会となっております。

これからも富山地域に根ざす企業として地域の皆様との交流を深めていきます。



スタート前にみんなで円陣! (いっちゃん!リレーマラソン2014)

■参加・協賛イベント (一部)

2014年2月	小杉区域少年野球連盟	協賛
2014年6月	いっちゃん!リレーマラソン2014	『天空の杜』ブース出展、リレーマラソン参加
2014年6月	日枝神社大祭 (山王まつり)	『さらら』・フルーツマトの出展販売、イベント翌日の清掃活動
2014年7月	KNB大バザール2014	フルーツマトの出展販売
2014年9月	新湊カニかに海鮮白えびまつり	協賛
2014年10月	富山中央花卉園芸まる花	協賛

02 未来を担う次世代の育成



企業活動や組織について理解を深め、自分の適性や能力に見合った職業を選択する意識を醸成してもらうことを目的に、職場体験の受入を行っています。

富山県が実施している『14歳の挑戦』に参画し中学2年生を、そして高校生のインターンシップの受入を行いました。社員にとっても刺激になっており、今後も継続して実施していきます。

03 社員教育活動



社内の次世代育成のために、様々な形で社員教育を行っております。

営業課では廃棄物関連法規の理解度チェックテストを定期的に行い、法改正への対応やお客様へ安心・安全のサービスを提供できるように努めています。また、全部署共通の研修会を開催し、水質汚濁やISO14001の取組など当社のCSRについて理解を深めています。

[マテリアルバランス]

INPUT

エネルギー（全事業所）

電気	34520Mwh
A重油	1070653L
廃油	225268L
灯油	20500L
軽油	904292L

原材料

消石灰	877326L
活性炭	17702L
キレート剤	58055L
アンモニア	1634m³

ボトリング原材料

水	6885m³
---	--------

産業廃棄物

310127.7t	
廃プラスチック類	151142.3t
がれき	43003.1t
鉱さい	21658.6t
ガラス陶磁器くず	20122.7t
破碎・選別可燃物	17717.4t
シュレッダーダスト	15277.0t
無機汚泥	13846.1t
下水道汚泥	5196.5t
木くず	5135.0t
有機性汚泥	4049.2t
燃え殻	2416.1t
PCB汚染物	1999.9t
ばいじん	1521.2t
一般廃油	1406.8t
廃PCB等	927.4t
瓦礫類（コンクリート）	919.9t
石棉含有産廃	887.1t
紙くず	881.4t
無機性汚泥	430.7t
廃アルカリ	409.5t
金属くず	352.1t
感染性産業廃棄物	342.1t
動植物性残渣	213.2t
繊維くず	94.7t
瓦礫類（アスファルト）	67.5t
廃酸	45.0t
PCB処理物	44.9t
腐食性廃アルカリ	11.6t
有害汚泥	6.0t
廃プラスチック類（タイヤ）	1.5t
有害廃アルカリ	0.7t
腐食性廃酸	0.3t
ゴムくず	0.2t



廃棄物 事業



リサイクル 事業



アグリ 事業



ボトリング 事業

OUTPUT

CO₂排出量

28043.00t-CO₂

※エネルギー起源のCO₂排出量を対象として算定しています。

製品生産量

リバースパレット	24597t
水製造（500ml）	825,024本
水製造（2000ml）	3,216本

リサイクル

当社処理	20376.8t
外部委託	22313.4t

最終処分（埋立・焼却）

当社処理	25382.5t
------	----------

その他廃棄物（外部委託）

外部委託	2250.7t
------	---------

■ 水質測定データ

当社が保有している施設からの排水や周辺環境の水域・地下水・浸出水などの水質測定を定期的に行い、水環境の保全に努めています。

[最終処分場総合排水の水質測定結果] (平成26年6月4日実施)

ID	項目	結果	単位	定量下限値	管理目標
1	ph	7.6		—	5.8~8.6
2	SS	2	mg/L	—	30
3	BOD	24	mg/L	—	25
4	COD	48	mg/L	—	90
5	電気伝導率	380	ms/m	—	—
6	全窒素	59	mg/L	—	120
7	全りん	0.44	mg/L	—	16
8	大腸菌群数	<30	個/cm ³	30	3000
9	ノルマルヘキサン抽出物(鉱物油類)	<1	mg/L	1	5
10	ノルマルヘキサン抽出物(動植物油)	<1	mg/L	1	30
11	フェノール類	<0.5	mg/L	0.5	5
12	銅	<0.1	mg/L	0.1	3
13	亜鉛	<0.5	mg/L	0.5	2
14	溶解性鉄	<1	mg/L	1	10
15	溶解性マンガン	0.3	mg/L	0.3	10
16	全クロム	<0.2	mg/L	0.2	2
17	カドミウム	<0.005	mg/L	0.005	0.1
18	全シアン	<0.1	mg/L	0.1	1
19	鉛	<0.01	mg/L	0.01	0.1
20	有機りん	<0.1	mg/L	0.1	1
21	六価クロム	<0.02	mg/L	0.02	0.5
22	砒素	<0.005	mg/L	0.005	0.1
23	総水銀	<0.0005	mg/L	0.0005	0.005
24	アルキル水銀	不検出	mg/L	0.0005	検出されないこと
25	ポリ塩化ビフェニル	<0.0005	mg/L	0.0005	0.003
26	ジクロロメタン	<0.02	mg/L	0.02	0.2
27	四塩化炭素	<0.002	mg/L	0.002	0.02
28	1,2-ジクロロエタン	<0.004	mg/L	0.004	0.04
29	1,1-ジクロロエチレン	<0.002	mg/L	0.002	0.2
30	シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.04	mg/L	0.04	0.4
31	1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	mg/L	0.0005	3
32	1,1,2-トリクロロエタン	<0.006	mg/L	0.006	0.06
33	トリクロロエチレン	<0.002	mg/L	0.002	0.3
34	テトラクロロエチレン	<0.0005	mg/L	0.0005	0.1
35	1,3-ジクロロプロペン	<0.002	mg/L	0.002	0.02
36	チウラム	<0.006	mg/L	0.006	0.06
37	シマジン	<0.003	mg/L	0.003	0.03
38	チオベンカルブ	<0.02	mg/L	0.02	0.2
39	ベンゼン	<0.01	mg/L	0.01	0.1
40	セレン	<0.01	mg/L	0.01	0.1
41	アンモニア,アンモニア化合物,亜硝酸化合物及び硝酸化合物	31	mg/L	1	200
42	ふっ素	0.9	mg/L	0.1	15
43	ほう素	4.6	mg/L	0.1	50
44	1,4-ジオキサン	<0.05	mg/L	0.05	0.5
45	ダイオキシン類	0.013	pg-TEQ/L	0.005	10

■ 焼却炉管理データ

当社が保有している発電併用焼却施設において定期的に物質測定を行い安全な施設運営を行っております。

[焼却施設維持管理記録 測定結果] (平成26年9月26日実施)

	項目		検査結果	管理目標
	排ガス中のばい煙量又はばい煙濃度(採取位置:煙突)	排ガス量	Nm ³ /h	55000
硫黄酸化物		ppm	14	100
K値		—	0.11	0.94
ばいじん		mg/Nm ³	<1	20
塩化水素		mg/Nm ³	43	150
窒素酸化物		ppm	4	150
ダイオキシン類		ng-TEQ/Nm ³	0.015	0.1
PCB		ng/Nm ³	0.005	100000

	項目		検査結果	管理目標
	燃え設	強熱減量	%	9.6
ダイオキシン類		ng-TEQ/g	0.011	3
PCB		mg/L	<0.0005	0.005
ばいじん	強熱減量	%	5.2	10
	ダイオキシン類	ng-TEQ/g	1.2	3
	PCB	mg/L	<0.0005	0.005

社名	株式会社富山環境整備	所在地	[本社] 富山県富山市婦中町吉谷3-3
代表者	松浦 英樹		
設立	1972年10月		[富山支店] 富山県富山市金屋3783-8
資本金	2,000万円		[黒部営業所] 富山県黒部市萩生新堂7419
社員数	291名(2015年8月31日現在)		[不二越東富山事業所] 富山県富山市米田10
関連会社	株式会社スマートフォレスト 坂本組株式会社 NPO法人 安全企画センター 株式会社万榮 富山環境タイランド株式会社 資源開発株式会社 株式会社クア・ソリューション		[吉谷事業所] 富山県富山市婦中町吉谷3-3 [下吉川事業所] 富山県富山市婦中町下吉川517 [池多事業所] 富山県富山市池多1831-1 [金沢営業所] 石川県金沢市木越町ホ-68
加盟団体	一般社団法人 富山県産業廃棄物協会 一般社団法人 石川県産業廃棄物協会 特定非営利法人 プラスチックマテリアルリサイクル 最終製品利用推進協議会 公益社団法人 富山県計量協会 一般社団法人 廃棄物処理施設技術管理協会 一般社団法人 日本環境測定分析協会		[東京支店] 東京都品川区南大井5-22-12 [中部営業所] 愛知県小牧市小牧原新田1703-1 [大阪営業所] 大阪府高槻市芥川町2-24-5
認定団体	自動車リサイクル法施設認定 一般社団法人 日本パレット協会 エコスタッフ・ジャパン株式会社		

編集方針

- [報告対象組織] 株式会社富山環境整備
- [報告対象期間] 2013年11月～2014年10月(一部対象期間外の活動を含む)
- [発行時期] 2015年9月
- [参考ガイドライン] 環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)、温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度
- [お問合せ] 株式会社富山環境整備
総務部 / 松浦 志帆子
〒939-2638 富山県富山市婦中町吉谷3-3
TEL:076-469-5356 FAX:076-469-5635 E-Mail:yositani@tko-co.jp

- 1972年 ● トヤマロードサービス個人創業
- 1973年 ● 有限会社富山環境整備に社名変更
- 1974年 ● 産業廃棄物収集運搬業取得
- 1985年 ● 産業廃棄物処分業取得
産業廃棄物最終処分場(旧処分場)設置
- 1988年 ● 株式会社富山環境整備に社名変更
- 1992年 ● 産業廃棄物最終処分場(第1期処分場)設置
- 1993年 ● 産業廃棄物最終処分場(第2期処分場)設置
産業廃棄物圧縮・減容施設設置
- 1995年 ● 一般廃棄物処理施設(選別・圧縮)設置
- 1996年 ● 金沢支店(営業所)開設
- 1998年 ● 産業廃棄物選別施設設置
- 1999年 ● 産業廃棄物破碎・選別施設設置
- 2000年 ● 一般廃棄物処理施設(圧縮・結束)設置
プラスチック再製品化施設「リバース工場」設置
汚泥・残土再資源化施設(選別・分級・脱水)設置
- 2001年 ● 一般廃棄物処理施設(再材料化施設)設置
産業廃棄物再材料化施設設置
産業廃棄物圧縮・減容(ラージベール)施設設置
いちごハウス栽培開始
- 2002年 ● 産業廃棄物最終処分場(第3期管理型処分場)設置
- 2004年 ● ISO9001-2000を建設事業部、環境事業部(リバース工場)で認証取得(JAB)
- 2005年 ● ISO14001-2004を本社、吉谷事業所、富山支店全域で取得(JAB)
富山西営業所開設 ISO14001-2004適用範囲追加
- 2006年 ● エコスタッフ・ジャパン株式会社認定
- 2007年 ● 生物処理・中和施設設置
- 2008年 ● キレート・吸着処理施設設置
発電併用焼却施設「リバースパワー」設置
- 2009年 ● 特別管理産業廃棄物処分業取得
- 2010年 ● 汚染土壌処理業取得
自動車リサイクル法施設認定
- 2011年 ● 計量証明事業登録
優良産業廃棄物処理業者認定(富山県 産業廃棄物収集運搬業・特別管理産業廃棄物収集運搬業/富山市 産業廃棄物処分業)
- 2012年 ● 微量PCB汚染廃電気機器無害化処理大臣認定
下吉川事業所開設
池多事業所開設
- 2013年 ● 低濃度PCB廃棄物の無害化処理大臣認定
池多事業所にてボトリング事業開始
日本ユネスコ協会連盟との連携プロジェクト「天空の杜プロジェクト」始動
東京支店(営業所)開設
- 2014年 ● 大阪営業所開設、中部営業所開設
優良産業廃棄物処理業認定(富山市 特別管理産業廃棄物処分業)
微量PCBを含む低濃度PCB廃棄物無害化処理大臣認定(再認定/前認定廃止)
- 2015年 ● 富山スマートアグリ次世代施設園芸拠点 竣工



株式会社 富山環境整備

〒939-2638 富山県富山市婦中町吉谷 3-3
[TEL] 076-469-5356 [FAX] 076-469-5635 [E-Mail] yositani@tko-co.jp

ホームページ

<http://www.tks-co.jp>